



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 2月号

令和6年1月31日

横浜市立青木小学校

「青木の時間」と青木フェスティバル — 本校に大切な学び —

校長 後明 好美

1月も終わり、学校では大きな行事も3月の卒業式を残すのみとなりました。今号では少し前に開催された行事、青木フェスティバルに関わる学習についてお伝えできればと思います。

伝統であり 進取であった 「青木の時間」

12月に本校の大切な行事のひとつ、青木フェスティバルが開催されました。数年ぶりに保護者・地域の皆様に一堂にお集まりいただくことができ、子どもたちは張り切って当日の運営等を行っていました。皆様には多々御協力を賜り、ありがとうございました。

この青木フェスティバルでは、生活科と青木の時間（総合的な学習の時間）で学んでいることを、クラスごとにパビリオンに仕立てて発信をします。生活科は平成元年、総合は平成10年に国が創設した、学校教育の中で1番目と2番目に新しい教科等となります。本校はこれまで、その国の動きに先んじるように、青木の時間での学習を大切に子どもたちの資質・能力を育ててきました。この青木小が保護者・地域の皆様の深い御理解と御協力のもとで、伝統と進取の精神、どちらも大切に学校づくりをしてきていることを改めて感じます。そして青木フェスティバルは、その学習過程を皆様にお示しする場として、これまでずっと本校が大切にしてきた行事です。

これからの社会を生きていく子どもたちのための「青木の時間」

学校では、教師はあまり失敗のないように国語や算数等の教科指導をします。前の学習を生かしながら、つまずきのないようにスモールステップで、子どもたちが達成感を味わうことができるよう、指導をしていきます。そしてより早く、より無駄なく正解にたどり着くことができるよう配慮をします。

一方、別の学びとして、青木の時間（総合的な学習の時間）があります。これは実際に体験し、諸感覚を駆使して思考することを大切に、地域社会における現実の課題を追究していく学習です。ここでは答えのわからない問題に向かって、友達と協働しながら、ときに教師も共に悩みつつ、トライ&エラーを繰り返して学習を進めていきます。「失敗してもあきらめない粘り強さ」「難しいことから逃げないメンタリティ」等、実社会で通用する力を育成することをねらっています。

昨年度までの新型コロナウイルスへの対応では、誰一人として正解がわからない中を、状況を多面的にとらえ、多くの人と協働的に考えながら、100%正解ではなく80%の「納得解」を導き出して実行に踏み切る、そんな決断と行動の連続でした。これからの社会では上のような、情報等を多面的かつ多角的に収集・分析し、多くの人と協働的に思考したうえで自分で決断ができる力が求められていくのではないのでしょうか。

子どもたちには、これから3月までも、たくさんのことに果敢にチャレンジし、成功も失敗もしながら友達と一緒に経験を重ね続け、将来自分自身で判断と実行のできるたくましい人に育ててほしいと願っています。学校でも、これまでも大切にしてきた生活科・青木の時間等の中で、子どもたちが豊かな体験を通して感じ、考え続けることを大切にしていきます。

2月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。